平成３０年度　全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査の結果の公表

武雄市立（　朝日　）小学校

本校の平成３０年度　全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査の結果を公表いたします。

学校教育は、「知・徳・体のバランスのより高い調和」を目指しており、今回公表した学力調査結果はその一部です。また、日々成長している子どもたちの現時点での一面であり、今後の取組の資料とするものです。この結果を受け指導方法の新たな検討、校内研修の活性化等に取り組みます。

また、保護者・市民のみなさまに学習状況・意識調査（家庭や地域での学習や生活状況）の結果をお知らせすることにより､学校教育への関心を高め、市民総ぐるみで教育を考えていただく機会にしたいと思います。

児童、生徒の学力の向上には学校と家庭や地域との連携が必要です。今回、学習状況・意識調査を合わせて公表することで連携体制をより強くしていきたいと思っております。

公表は、６年生は全国学力・学習状況調査、５年生は佐賀県学習状況調査の結果です。

全国学力・学習状況調査は国語、算数共にＡ問題、Ｂ問題という２種類の調査で成り立っています。おおむねＡ問題は「知識」に関する問題、Ｂ問題は「活用」に関する問題です。

また、今年度は，６年生において、３年に１度の理科調査（「知識」に関する問題と「活用」に関する問題を一体的に問う問題）も実施されました。

結果を受けての本校の分析と改善に向けた具体的な取組を掲載しておりますので、ご覧ください。

１　児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語			算数			理科
	５年時	６年時		５年時	６年時		６年時
		A	B		A	B	
H26 入学	61.6			67.9			
現５年	(0.92)			(0.96)			
H25 入学	71.1	73.0	57.0	71.6	69.0	57.0	69.0
現６年	(1.05)	(1.02)	(1.05)	(1.01)	(1.09)	(1.11)	(1.13)
H30 正答率の全国比		(1.03)	(1.04)		(1.08)	(1.1)	(1.14)

◎５年時は佐賀県学習状況調査、６年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段（　　）は、県平均を１としての比較。

◎「Ｈ３０正答率の全国比」は全国平均を１としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

【国語に関して】

〈５年生〉

・全体として県平均を下回る結果であった。

・領域別では「書く」領域に関しては県平均を 1.4 ポイント程度上回っていたが、「話す・聞く」「読む」「知識・理解・技能」では、いずれも県平均を５ポイント以上、下回っていた。

・特に「読む」領域の平均が県平均よりも 8.8 ポイント落ち込んでおり、読解力に課題がみられた。

・選択・短答式の問題では県平均を下回っているものの、記述式の問題においては県平均を上回っていた。ただし、記述式の問題においては無回答率が県平均の２倍ほどに上った。このことから、記述はできる児童は全体的に多いものの、全く書けなかった児童も一定数おり、個人差が大きいことがうかがえる。

〈６年生〉
・全体として全国平均、県平均を上回っていた。
・領域別に見ても、Ａ問題（基礎･基本）・Ｂ問題（活用）ともにほとんどの領域で良好な結果であった。
・全国・県平均との比較でＡ問題（基礎･基本）よりもＢ問題（活用）の結果がよかったことから、全体的に活用力は育っていることがうかがえる。

【算数に関して】
〈５年生〉
・全体として県平均を下回った。
・領域別に見ても、「知識・理解」「技能」「考え方」の三観点ともに県平均を３ポイント程度下回っており、基礎・基本的な内容理解に課題があることが分かる。

〈６年生〉
・全体として全国平均、県平均を上回っていた。
・領域別に見てもＡ問題（基礎･基本）・Ｂ問題（活用）ともに「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」の４観点ともに全国・県平均を上回る結果だった。このことから全体として「基礎・基本」「活用力」は良好な状態と言える。
・ただし、Ｂ問題（活用）は全 10 問中０～３問しか正答でなかった児童の割合が 18％で、これに該当する児童の学力をいかに引き上げていくかが課題である。

【理科に関して】
・全区分、全観点で全国平均、県平均を上回っていた。
・問題形式が「記述式」の結果がよかったことから、知識理解だけでなく科学的な思考力もついていることが分かる。

【意識調査に関して】
〈５年生〉
・学校での学習時間以外の家庭学習時間が県平均と比較して少ない傾向にある。
・学習したことの復習をする児童の割合は高いが、分からなかったり間違えたりした問題のやり直しをしている児童の割合が低い。
・各教科の学習について「学習が好きだ」と答えている児童の割合は高く、学習意欲そのものは高い児童が多い。

〈６年生〉
・学校での学習時間以外の家庭学習時間が県平均と比較して多い傾向にある。
・「自分には、よいところがある」「人の役に立つ人間になりたい」と答えた児童の割合が多く、自己肯定感・自己有用感が高い傾向がうかがえ、学習意欲につながっているようだ。
・これまでに地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があった児童の割合が高いことも学習意欲の喚起につながっていると考えられる。

２　改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

・教師が授業をする際に、教材を教えるのではなく、それぞれの教材でどんな力を身につけさせるのかを意識して授業に臨むようにする。
・学習の進め方で「めあて」「まとめ」「ふり返り」の流れで学習を進めることが定着している。しかし、そのとらえ方については教師と児童の意識のずれが見受けられる。そのため、特に「まとめ」「振り返り」は、教師と児童がともに作り上げていくようにする。
・これまでに引き続き、学び合い活動の充実を図る。自分の考えが間違っていても安心して発言できるようにクラスの支持的風土を作りながら進めていく。
・６年生は、記述式の問題の結果が良好だったことから表現力や活用力については伸びてきていると考える。しかし、個人差が大きいことは課題である。授業の中では、自力解決を図る場面で全員が自分の考えをしっかり持つことができるよう、特に「導入」と「見通し」に力を入れて指導の工夫を続けていく。
・５年生は、課題である読解力をつけるため引き続き読書活動に力を入れる。また、問題そのものに対する理解が不足しているので、問題を読み「分かっていること」「問われていること」などの関係を整理する力をつけるために、複数回読むことやどのように答えるとよいかなど基本的なパターンを教え、慣れさせるようにする。

(2)　(授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

・本校は、学習規律などの基礎的・基本的な事項について学校生活全般で「静」を活用した指導の研究に取り組んでいる。掃除の時間や集会活動など授業外でも「静」を意識させることで、集中して聞く習慣をつけさせ、学力向上を図る。
・家庭学習で毎日の宿題に出す「漢字」「計算」「音読」の提出率はおおむね良好であるので、今後は家庭学習の内容の改善を図っていく。
・条件作文など過去の調査問題等を活用した復習をするなど、期間を設定し集中的に取り組ませることで、条件に合わせた回答の仕方について指導する。
・読書に関しては、関心が高い児童が多く、今の状況を維持していく。読書の習慣がついていない児童もいるため、読書の更なる習慣化を目指していく。
・５年生は、家庭学習時間が県平均と比較して少ないので、子ども達にも家庭学習の大切さを伝え、家庭学習の時間を増やすように指導する。また、学級・学年懇談会や地区懇談会等、折に触れて啓発を図り、家庭・地域の協力を得るようにしていく。